

高崎高校同窓会報

2017

No.51

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

平成29年11月30日

創立120周年記念式典 盛大に挙行される



全校マラソンについてのあれこれ



スタート直後(後方の木立は並榎の五輪坂上)【昭和29年】

長距離競走が学校行事に最初に取り入れられたのは大正3(1914)年で、6年5月16日の創立20周年記念式後の大運動会でも学校へ八千代橋へ乗附し、聖石橋へお濠へ学校をコースとする長距離競走が行われ、大いに盛り上がった。翌7年創立記念日が新たに5月20日と定められ、その記念行事として8(1919)年より学校へ碓氷郡八幡村八幡宮往復をコースとする創立(開校)記念日記念行事の長距離競走が始まった。こうして始まったこの行事も理由は分からないが10(1921)年までしか実施されず、長い中断の後昭和11(1936)年に同コースで再開されたが、これもなぜか13年には研屋材木店へ沖へ町屋へ豊岡へ君が代橋へ学校のコースに変更されて行われている。これ以後は実施された記録はなくなり、14・15年の5月20日前後には県下中等学校の団体長距離競走が行われた記録

がある。その後戦争の深刻化とともに軍事演習や勤労動員に生徒が動員されるようになり、この行事は消滅してしまつたものと思われる。なお、この時期長距離競走を走つた記憶を語る先輩もあり、この頃の事情については不明な点が多い。この辺の事情をご存じの方はご教示下さい。

戦後の復活第1回は昭和25(1950)年に第54回開校記念マラソン大会として実施され、コースは君が代橋へ里見街道へ剣崎へ八幡駅へ藤塚へ中山道(翌年から現在旧道とよばれている国道18号)へ下豊岡へ八千代橋中間点へ学校だつた。27年からはコース終盤が下豊岡から君が代橋へ鳥川左岸へ八千代橋東詰へ八千代橋(鳥川にも架橋されていた)へ学校に変更された。このコースは41(1966)年まで続けられたが、この間28(1953)年には生徒総会の決議で大会が中止になり、翌年には復活するという波乱があつた。その後このコースは交通事情により変更せざるをえなくなり、42年からは吉井街道往復コースで実施することになる。このコースは安定せず、館折り返し、山名方面上信電鉄踏切折り返し等毎年変わったコースを走つた。そして45年には乗附一周コースに変わり、翌年になって国立コロニーコースに変更され現在に至っている。また、62(1987)年には、日程上、保健上不都合との理由で11月実施に変更されて、創立(開校)記念日行事としての役割を終えた。

なお、全校マラソンの回数について、戦後復活第1回を第54回と表記するのは、学校創立以来毎年実施されたという誤解による。また、昭和29年の大会を第6回とする高崎高校新聞第23号は、発議されたが実施しなかつた24年を復活第1回とし、28年の中止を考慮しない数え方で正確ではない。現在の回数がこの回数の上に積み重ねられたものならば、再考すべきではないか。
*これをまとめるに当たり、多くの同窓諸氏にご教示をいただいたことに深謝いたします。

(編集委員 田端穰・54期)



【昭和29年】

優勝者高見澤啓二氏(54期)を迎える役員

第54回開校記念日マラソン成績

順位	姓 名	年 級	時 間	備 考
1	高見澤 啓二	54	24.1	24.1.5.3 1.3. 2.4. 372.04
2	2.7	24.9.94	1.4.	2.4. 386.26
3	3.17	34.6.73	1.5.	1.6. 444.94
4	2.1	34.8.23	1.6.	2.8. 413.29
5	3.15	34.7.26	1.7.	1.7. 437.23
6	2.5	33.5.14	1.8.	2.23 429.52
7	3.2	33.7.33	1.9.	1.3 438.81
8	3.6	33.7.97	2.0.	1.5 454.61
9	3.3	34.2.6	2.1	3.10 467.51
10	3.6	34.3.91	2.2	1.6 468.01
11	2.2	37.2.44	2.3	1.1 476.51
12	1.2	37.2.78	2.4	3.7 481.04

開校記念マラソン記録

年 次	コース	時 間	備 考
1	25.1.15	24.1.5.3	24.1.5.3
2	25.1.16	24.1.5.3	24.1.5.3
3	25.1.17	24.1.5.3	24.1.5.3
4	25.1.18	24.1.5.3	24.1.5.3
5	25.1.19	24.1.5.3	24.1.5.3
6	25.1.20	24.1.5.3	24.1.5.3
7	25.1.21	24.1.5.3	24.1.5.3
8	25.1.22	24.1.5.3	24.1.5.3
9	25.1.23	24.1.5.3	24.1.5.3
10	25.1.24	24.1.5.3	24.1.5.3
11	25.1.25	24.1.5.3	24.1.5.3
12	25.1.26	24.1.5.3	24.1.5.3
13	25.1.27	24.1.5.3	24.1.5.3
14	25.1.28	24.1.5.3	24.1.5.3
15	25.1.29	24.1.5.3	24.1.5.3
16	25.1.30	24.1.5.3	24.1.5.3

第五十一期同期生、還暦記念誌『秀嶺榛名紫に』より

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(67期)

串田 紀之

平素より同窓会の皆様におかれましては母校への多大なご支援とご協力に心から敬意を表します。高崎高校は平成29年で創立120周年を迎えました。その記念式典を挙げるにあたって「創立120周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、委員長に就任させていただきました。皆様の御協力のもと滞りなく平成29年5月20日音楽センターに於いて記念式典を終えることができました。その後会場を高崎ビューホテルに移し、大勢の同窓生の参加で懇親を深めました。

さて本校は明治30年、市内赤坂にあります長松寺を仮校舎とし、群馬県立尋常中学校群馬分校として発足した母校は、明治31年に上和田校舎が完成、33年には高崎中学校として歴史の一步を歩み始めました。その後昭和13年に乗附の現在地に移転、15年には群馬県立高崎高等学校と改称し、22年には創立50

周年を、そして平成9年に100周年を迎え歴史と伝統を培ってまいりました。その間には校舎焼失など幾多の苦難もございましたが、その都度多数の諸先輩方のご尽力によって障害を乗り越え、母校高崎高校は揺るぎなく発展の道を歩んでまいりました。

高崎高校にはこの120年の歩みの中で培われ、諸先輩方が大切に育んでこられた「文武両道」「3F精神」という素晴らしい伝統があります。110周年以降、本日ここに120周年記念式典を迎えるまでの10年の間にも「文武」においてさまざまな実績を重ねてまいりました。さらに榛名山に沸く雲を追いかけるごとく高さを求め続け邁進し、発展を続ける高崎高校の未来が燦と輝くことを祈念し、記念式典にご理解とご協力をいただき盛大に挙行出来ましたことに、心から感謝を申し上げます。



高崎高等学校校長(78期)

加藤 聡

佐藤前校長の後任として、本年4月に富岡高校から異動してきました78期の加藤聡(さとし)と申します。よろしくお願い申し上げます。

まず以て、生徒として(昭和51～53年度)、教諭として(平成5～11年度)、そして今回校長としてという形で高高に3回関われることを、この上なく光栄であると常々感じております。

さて、本原稿を書いている今は夏休みの真最中です。多くの生徒が、部活動、定期戦の練習、そして勉強のために毎日登校しています。その表情には屈託がなく、自分のやるべきことに取り組もうとする意欲が感じとれ、しばしば次の俳句を思い出します。

「満面に汗して酬(むくい)求めざる」

阿波野青畝(せいほ)

ひたむきに、純粹に眼前のことに打ち込む姿は凛々しく、心を打ちます。このような純真さは、まさに青春時代でなければ味わえないものなのかもしれません。

そして、何にもまして、生徒が高校時代のことを振り返るたびに、高高が心の拠り所となり、「高高で学んで本当に良かった」と感じてもらえるよう、学校全体で日々教育活動を行っています。

同窓生の皆様には、今後とも本校の教育活動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

祝 群馬県立高崎高等学校創立120周年記念式典



創立120周年記念式典報告

日時：平成29年5月20日（土） 会場：群馬音楽センター

1 演能(12:00～12:15)

記念式典に先立ち、観世流能楽師下平克宏氏(76期)による、講話「初心、忘るべからず」と「高砂」の仕舞が行なわれた。

2 記念式典(13:15～14:15)

柴山雄二郎(61期)実行委員会副委員長による開会の辞に続き、吹奏楽部員の伴奏に載せて、国歌・校歌の斉唱が行なわれた。

物故者慰霊黙祷の後、加藤聡校長(78期)は「社会のリーダーとなるべく、熱き心と活力を持ち続けてほしい。」と式辞を述べた。串田紀之(67期)記念事業実行委員長による挨拶(表紙写真)の後、同窓生代表として富岡賢治高崎市長(64期)、続いて岩井均(81期)県議会前議長の順に祝辞が述べられた。また、生徒を代表して小林悠君(前生徒会長・3年)は高崎高校の伝統と誇りを胸に、力強く宣誓を行った。

式典の最後に応援歌翠辮を全員で合唱し、亀田慎也(88期)実行委員会副委員長の閉式の辞をもって、約1時間の記念式典は幕を閉じた。

3 記念講演会(14:30～16:00)

式典の終了後、寺島実郎氏(一般財団法人日本総合研究所会長)をお招きし、演題『変動する世界をどう見抜くか～高校生として踏み固めるべきこと』とした記念講演会が行われた。「高崎を知り、アジアと向き合い、世界の中の日本を意識する地理感覚を身につけることが重要である」ということに加えて、「今後訪れる『異次元の高齢化社会』を、若者としていかに生きるか熟考してほしい」と寺島氏は訴えた。



観世流講話・仕舞 下平克宏氏(76期)



加藤聡校長(78期)



記念事業実行委員長
串田紀之同窓会長(67期)



同窓生代表
富岡賢治高崎市長(64期)



県議会前議長
岩井均氏(81期)



寺島実郎氏

私たちは、日ごろ「伝統」というものをことさらに意識することはありません。それほど「伝統」とは私たちの心の中に無意識に根付いているものだと思います。しかし、この日ばかりは、高崎高校に身を置くものとしての誇らしさや責任を痛感せずにはられませんでした。

高崎高校創立120周年の場に居合わせたことの幸せをしっかりと胸に刻み込み、これからも高崎高校の伝統を守っていきたいと思います。

第117期生徒会長 小林悠



創立120周年記念祝賀会

会場：高崎ビューホテル

120周年記念事業祝賀会は、高崎ビューホテルにて、同窓生、旧職員、職員232名の参加者で盛大に行われた。

阿久澤茂(69期)副会長の開会の言葉、串田実行委員長と加藤校長の挨拶に続き、来賓として、下村博文(72期)元文部科学大臣、橋爪洋介(85期)県議、佐藤和徳(57期)前同窓会長に祝辞をいただいた。その後、歴代の校長、同窓会長、PTA会長、同窓会活動功労者として歴代幹事長と歴代渉外部長が同窓会より表彰を受けた。山本忠順(62期)東京同窓会会長の乾杯の音頭で歓談となり、出席者たちは全員が皆それぞれの高高話に花を咲かせていた。

最後に応援団による翠辮斉唱があり、大田部功(85期)翠辮体育会会長の万歳三唱の後、松本裕文(67期)副会長の閉会の言葉で閉会となった。時は瞬く間に過ぎ、名残惜しくも和やかに120周年記念祝賀会は幕を閉じた。



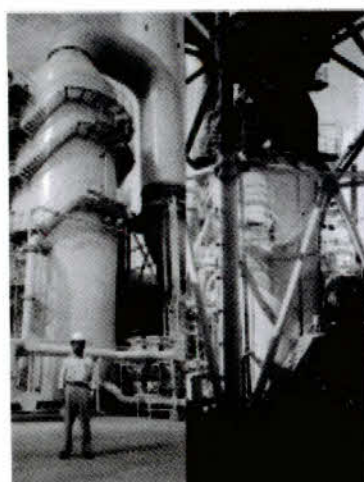
伝統を繋ぐ バラ園「指月庭」の整備



創立120周年の記念事業として、バラ園「指月庭」の整備が行なわれた。

指月庭は1952年、高崎の芸術文化振興に貢献した同校OBの故井上房一郎氏により造られ、我が校を象徴する庭園である。庭園の保全のため、2015年11月より2016年1月にかけて、同窓会出資による土壌の改良を行った。約700平方メートルの園内にバラ47種140株を新たに植えた。

同窓生有志のボランティア団体、指月庭倶楽部(高橋成東会長・71期)や、在校生のバラ委員らの活動により、創立を祝う今年、色とりどりのバラが見頃を迎えた。時代が変わっても、在校生と卒業生とを繋ぐ場所は健在だ。



海外での火力発電所排煙脱硫装置にて



「地球環境」から技術・経済・世界を再構築する時代に

御供 謙一

株式会社スマート環境制御代表取締役

1.はじめに

近年は、「地球環境」の視点から、地球市民として社会をゼロから見直し再スタート・再構築することが問われている。それが今や急激なグローバル化や自然災害大規模化等の渦に巻き込まれて、理性を見失った人や国が国際秩序への逆流と混乱を引き起こしている。「地球環

境」を合言葉に人類の持続可能な開発発展が望まれる。ここで世界と日本の環境対策について俯瞰してみる。

(注記:以下、文字数の節減のため専門用語・金額・統計数値等を簡略表現し、出典も省略するがご容赦ください。)

2.環境対策の推移の概要

約46億年前に地球誕生とされ、200万年

前石器時代に猿人が石器(道具)を使い始めた。18世紀に英国から産業革命が始まった。日本では明治19年から近代化産業革命が始まり、明治34年足尾銅山鉍毒事件(代議士が天皇へ直訴)、昭和20年世界大戦で広島・長崎原爆により十数万人死亡し多数の被爆者が発生(終戦)。

年号	日本の出来事	世界の出来事
1948 昭和23	農薬取締法	WHO(世界保健機関)設立
1958 昭和33	工場排水規制法制定	
1962 昭和37		「沈黙の春」出版レイチェル・カーソン著
1967 昭和42	公害対策基本法制定。騒音規制法・振動規制法。航空機騒音障害防止法	
1968 昭和43	大気汚染防止法制定	原子力損害バリ条約発効
1970 昭和45	公害国会14法整備、水質汚濁防止法等制定	ローマクラブ設立「成長の限界:人類の危機」発表、OECD(経済協力開発機構)環境委員会設置
1971 昭和46	環境庁設置(2001年環境省に昇格)	ラムサール(湿地生物保護)条約締結
1972 昭和47		国連人間環境会議(環境初政府間会合)国連環境計画(UNEP)設立
1973 昭和48	公害健康被害補償法制定(汚染者負担原則・無過失責任主義)	ワシントン(絶滅野生動物国際取引)条約締結、WHO環境保健基準プログラム創設
1978 昭和53	水質汚濁防止法改正(閉鎖性水域規制)	海洋汚染防止条約(マルポール)条約
1979 昭和54		長距離越境大気汚染条約国連欧州経済委員会(UNECE)で採択
1985 昭和60		オゾン層の保護に関するウィーン条約採択
1988 昭和63	オゾン層保護法(フロン規制)制定	ICPP(国連気候変動政府間パネル)発足
1989 平成01		ブッシュ米大統領とゴルバチョフソ連書記長(後にノーベル平和賞)で冷戦終結宣言
1992 平成04		国連地球サミット初気候変動枠組条約採択・生物多様性条約・森林原則自然資本宣言、バーゼル(有害物質国境移動規制)条約発効。南極環境保護条約議定書発効
1993 平成05	環境基本法(公害対策基本法から)成立(産業公害、都市生活型、地球規模も)	
1994 平成06		UNDP(国連開発計画)「人間の安全保障」概念報告
1995 平成07		温室効果ガス排出削減等協議会議第1回(COP1、ベルリン)以来毎年開催
1997 平成09		京都議定書(気候変動枠組条約温暖化温室効果ガス削減)採択
2000 平成12	循環型社会形成推進基本法制定	生物安全性カルタヘナ議定書採択
2002 平成14	土壌汚染対策法制定	持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)
2004 平成16	水俣病最高裁判決(国・熊本県責任)	環境分野(「もったいない」を合言葉で活動)アフリカ女性史上初ノーベル平和賞
2007 平成19		ノーベル平和賞ゴア米元副大統領IPCC授与、IPCC第4次報告(温暖化原因ほぼ人間と断定)
2011 平成23	東日本大震災発生、福島原発事故、放射性物質汚染対処特措法	
2013 平成25		UNEP 熊本県水俣市で水俣(水銀規制)条約採択
2014 平成26		IPCC第5次評価報告(科学的に温暖化21世紀末最大4.8℃上昇)、自然資本連合(NCC)設立、テロリストがイスラム国宣言
2015 平成27		国連持続可能開発2030アジェンダSDGs持続可能開発目標(環境も)、ローマ法王が国連で戦争は環境への攻撃と戒め演説
2016 平成28		パリ協定(温室効果ガス削減史上初先進国途上国同等)を発効
2017 平成29	原発放射性廃棄物地層処分地マップ公表	米国トランプ大統領誕生パリ協定離脱宣言

3.各分野の経緯と今後の展望

環境問題とその対策の範囲は極めて広く、学際的かつ国際的に対処しなければならない。「地球環境問題」を主に、「資源・エネルギー問題」や「産業・都市生活公害」に大別して概要を述べる。

3-1.地球環境問題の経緯と今後

【世界】地球環境対策は、「気候変動枠組(地球温暖化)条約」など既に約11の条約がある。最近、国連持続可能開発2030アジェンダSDGs(持続可能開発目標)が採択され環境・経済・社会は一体不可分とし世界を変える基本項目が挙げられ、このうち環境項目が「水」「エネルギー」「生産消費」「気候変動」「海洋」「生態系森林」で、他は「貧困」「飢餓」「健康生活」「教育」「ジェンダー平等」「雇用」「インフラ」「不平等是正」「安全都市」「法支配」「パートナーシップ」である。気候変動政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書では、科学的視点から「温暖化は疑う余地はない」「21世紀末にRCP8.5シナリオで温度上昇最大4.8℃(1986~2005年基準)可能性」と報告、今後の対策として気温上昇2℃未満目標(産業革命前比)を掲げ省エネ・再生可能エネルギーの導入継続で異常気象自然災害を減らすとしている。

金融動向は、投資家サイドのESG(環境社会企業統治)投資による資産規模が、22兆ドル(2016年)に拡大、再生可能エネルギー導入量はこの10年間で2倍以上で各国で推進されている。CO₂排出量は経済成長とともに増加したが、近年に入り、そうとはならず、デカップリングが継続されている。ビジネス投資動向は、気温上昇2℃シナリオ(2016~2050年)で発電37兆ドル・輸送350兆ドル・産業12兆ドル・建物45兆ドルと試算され、様々な企業でリスクとするよりもビジネスチャンスとして対策が進められている。

【日本】環境政策の新たな方向は、国連SDGs採択を受け「あらゆる人々の活躍推進」「健康長寿達成」「成長市場地域活性」「科学技術イノベーション」「持続可能国土インフラ整備」「省再生可能エネルギー気候変動対策循環型社会」「生物多様森林海洋環境保全」「平和安全安心社会実現」「SDGs実施推進体制手段」を規定。地球温暖化はパリ協定を締結して、温室効果ガス排出削減目標を2030年度26%(2013年度比)、2050年度には80%を設

定した。従来の取組では実現不可能なので抜本的なイノベーションと国民の知恵が必要である。

3-2.資源・エネルギー問題の経緯と今後

【世界】天然資源の偏在と枯渇に、近年の国際社会は、特にエネルギー資源に翻弄されている。欧州(EU)は福島原発事故でドイツ等が原発を停止させ、またロシアからの天然ガス供給不安が生じ今後は再生可能エネルギー割合を50%に拡大すると見込まれる。米国はオバマ政権で従来の石炭発電を規制強化し、シェールガス革命でCO₂発生が少ない天然ガス発電を推進したが、トランプ政権ではCO₂発生への規制緩和が予想される。中国は石炭火力による大気汚染が深刻で今後は天然ガス火力も増え再生可能エネルギーも拡大される。世界の再生可能エネルギー導入量は、この5年間で風力・太陽光発電が拡大され投資額は火力発電を上回っているとされる。

【日本】福島原発事故までは原発を50%位まで増強する勢いが、東日本大震災の福島原発事故でエネルギー政策の転換に苦慮し、2030年温室効果ガス削減目標を勘案して、エネルギーミックス(電源構成)方針を策定した。まず安全性を前提とし、安定供給(エネルギー安全保障)・経済性(コスト)・環境適合性(温暖化対策)の視点から、発電総量割合を「原発20~22%」「再生可能エネルギー発電22~24%」「火力発電56%」、再生可能エネルギー発電は水力・太陽光・風力・バイオマス・地熱を活用する。

4.雑感とエピソード

産業・都市生活公害は、世界では、1873~1992年英国等9ヵ国で大気汚染・有害化学物質汚染で死者・被害者等発生。原発での放射性物質等事故は、1945年米国をはじめソ連他18ヵ国科学技術先進国でも発生し、原発放射性廃棄物対策は永年の難題でフィンランド等で処分場立地点の選定が進められている。日本でもやむなく原発放射性廃棄物地層処分地マップを公表したところである。化学物質対策は、UNEPで「国際的学物質管理戦略アプローチ(SAICM:2006年採択)」の承認をはじめ、EU・OECDで広く進められ日本も追随している。2017年には水銀水俣条約締約国会議が開催される。

日本では、明治から昭和にかけて環境汚染が進みいわゆる四大公害病等が発生。昭和42年「公害対策基本法」を制定し、その後平成5年「環境基本法」を制定し、国・地方自治体・事業者のみならず国民も一体となって着実に環境対策を進めている。

私は大学卒業研究を東京都環境科学研究所で行い環境技術開発専門のベンチャー企業に就職し昭和49年から環境対策分野の仕事に就いた。当時の企業経営者達は、明治生まれ満鉄帰りの肝が座った人もいて行政と工場の間に入り、新技術開発で産業公害問題を解決する意気込みであり、産官学の協力を得られ日本全体の産業公害問題を見事に沈静化しOECD等国際的にも称賛された。国内が一巡した後はアジアの政府や工場に対して経産省・環境省・外務省・JODC・NEDO・WRPC・JETRO・JICAを中心に環境対策技術移転啓蒙を行い、品格のある優秀な日本人達と信頼を得られつつある。因みに私が研究開発したバイオ脱臭技術も、日本産業機械工業会会長賞等を受賞して普及の草分けとなり、環境技術分野の一ジャンルとなり、そのレベルは諸外国の米国よりも先進とされた。平田正先輩のバイオ先進の協和発酵工業殿にも納入した。百瀬先輩・中曽根先輩・福田先輩が貢献された韓国の世界最大級製鉄所POSCOには、後に私も環境技術者として訪問し迎賓館にも宿泊した。

環境対策は、今や人の目測で判別できないミクロ・ナノの超微細物質に対し幾多の種類・条件の複合作用について考察を要し、同時に科学技術・社会経済・文化宗教等を地球規模で国際的に解決せねばならず、正にビッグデータを駆使するメガサイエンスである。幸い、人工知能・コンピュータ・ロボットの発展が著しく活用が期待できる。しかし、中立の国境なき医師団でさえ戦火に襲われ犠牲者が出ている。また、世界三大宗教の代表格のローマ法王が戦争は環境への攻撃と国連で演説したように、再び人間による環境破壊の脅威が増大している。一国の利害に猪突猛進することなく、地球市民の一人として、冷静沈着に持続可能な国際社会づくりに貢献していくことが肝要である。



私の「高高時代」

前群馬県医師会会長・月岡内科医院院長

月岡 関夫

森田公一の有名な(中年以上)曲「青春時代」の中で「青春時代の真ん中は胸に棘射すことばかり」と歌っておりますが、私の青春時代「高高時代」は「毎日楽しいことばかり」でした。

昭和31年入学、昭和34年卒業、16歳から18歳の青春前期を過ごしました。「バックトゥーザフューチャー」という映画があり、その中でおんぼろ自動車で過去の世界を訪れることが出来ましたが、このように過去に行けたらどの時代に戻りたいかと尋ねられたら私は躊躇無く高高時代を希望します。

昭和30年代の初め、敗戦から10年程です。若さとエネルギーは十分過ぎる程ありましたが食べ物無い、洒落た服無い、彼女もいない、テレビもなく、映画、喫茶店禁止でした。ただし20年代と違い質的なことを言わなければ量は確保されていました。今の高高でも同じと思いますが、先弁(3時間目の休み時間に弁当を食べること)をし、昼はパンを買っておりました。

学校へはしばしば朴歯で登校しておりました。私は7キロ程を自転車で通学していましたが、高下駄を履いてペダルをこぐのは大変で結構苦労しました。また当時の自転車は変速機もなく学校まで30分以上かかりましたが、夏冬同じ時間に家を出ていたのだから上州名物の空っ風のため、遅刻の常習犯で校内での取り締まりで常に引っかかり、母親がしばしば呼び出されました。

三年間での一番の思い出は開校60周年の記念式典で様々なイベントがありました。この時に新しい校歌、校章も決まったと記憶しております。校章は同期の小島君が案を、24期の古井戸氏が纏め、レイモンド氏が加筆したと聞きました(現校章は2008年、58期の大木紀元氏にリデザイン依頼)。この時に生徒側にも実行委員が選ばれ、何故か私も当時二年生でしたが委員に選ばれました。委員長は当時柔道部の

部長をしていた石井さんで、この方は後に榛名町町長になられ、しばしばお会いする機会がありました。様々なことがありましたが、一番印象に残っているのは提灯行列で夜、練り歩きました。その時先頭で竿に提灯を付け、棒で持っていましたが、その写真は残っている様で先日どこかで見ました。帰ってからファイアーストームで大いに盛り上がり、その後実行委員の反省会兼慰労会ということで食べたり飲んだりしていたのですが、誰かが赤玉ポートワインを持ち込み甘く飲み易いので大部飲み大騒ぎをしていたら、先生に見つかり大目玉を食いました。これなども今になっては楽しい思い出です。



58期同窓会にて／写真右・幼稚園から一緒の大木紀元君
(前同窓会副会長)／中・若山亨君(前同窓会幹事長)



H29.4月 甘楽町さくらマラソンにて



群馬県の仏像

奈良教育大学教授

山岸 公基

仏像彫刻の歴史を解明しつつ、美術の歴史を講じるといった、一般にあまりなじみのないことを職業としており、郷里群馬県の、特に国指定重要文化財の仏像は、統計的に面白い(というか、日本国内では珍しい)と思います。現在群馬県に所在する国指定重要文化財の彫刻(仏像)は、前橋市善勝寺の鉄造阿弥陀如来坐像、渋川市不動寺の石造不動明王立像、桐生市青蓮寺の銅造阿弥陀如来及両脇侍立像の3件です。47都道府県の中では、鹿児島県・沖縄県の0件、北海道・秋田県の1件、青森県の2件に次ぎ、42位という少なさです。

仏像に興味をお持ちの方なら、国宝・重要文化財の彫刻の8割以上は平安・鎌倉時代の作で、かつ平安時代以降日本の彫刻は木彫が主流になったことを御存知でしょう。北海道の1件、青森県の2件、群馬県に次いで少ない宮崎県でも、4件中3件は木造です。群馬県の国指定重要文化財の仏像は、件数の少なさもさることながら、木造彫刻が無く鉄造・石造・銅造であるところが変わっています。平安時代・長元3年(1030)頃の『上野国交替実録帳』を読むと、上野国分寺や弘輪寺・慈広寺といった寺院に、ところどころ破損しながらも巨像が林立していたことがわかり、現在の群馬県域にあった仏像は決して少なくなかったことが知られます。同様に国指定重要文化財が少ない鹿児島県・宮崎県(特に南部)では幕末・明治初期の神仏分離・廃仏毀釈での破壊が激甚だったし、沖縄県は旧国郡制に組み込まれていませんでした。群馬県の国指定重要文化財の仏像彫刻の少なさ、素材の特異さは何に起因するのでしょうか?

推測の域を出ないのですが、その原因は県内に有力な戦国大名が育たず、特に高崎を含む県西部が武田氏・上杉氏・北条氏の三つ巴の争覇の草刈り場となった16世紀後半にあるのではないかと私は考えています。茅葺など植

物質の屋根を持つ寺堂は合戦に際して放火されやすく(群馬県内には中世建築も数えるほどしかありません)、仏像彫刻も焼亡した木造建築と運命を共にするケースが多かったのではないかと想像しています。

実は鉄造・石造・銅造という群馬県の国指定重要文化財彫刻の素材は、隣国の韓国で国宝・宝物(≒日本の重要文化財)に指定されている彫刻の主な素材と近似しており、不思議な暗合を感じます。韓(=朝鮮)半島は中国と日本との間にあって、中・近世に限っても13世紀前半～14世紀半ば過ぎにかけて高麗がモンゴル(元)に抗戦した後占領統治され、高麗を継承した朝鮮王朝(李氏朝鮮)は1592～3年にかけての文禄の役(韓国では壬辰倭乱と呼ばれます)、1597～8年にかけての慶長の役(丁酉倭乱と呼ばれます)の二度の日本からの侵攻を経験し、可燃素材である木造の彫刻は、災害・失火以外にもこれらの戦乱や朝鮮王朝の排仏政策の間に多くが失われたのでしょう。私が学生だった30年ほど前(13年7か月も学生だったのでサバは読んでいません)、韓国全体でも国宝・宝物の木造彫刻は指折り数えるほどしか知られておらず、前段の憶測をするようになったのもその頃からでした。

ところでその後韓国では、慶尚南道陝川海印寺の希朗大師坐像(10世紀)のように、古い木造彫刻が実は遺されていたことが次第に知られるようになりました。日本でもそうですが韓国では古像を彩色しなおす、場合によっては塑土を盛り上げて彫塑しなおすことが多く、後補部を取り除くことで古い木彫が現在進行形で知られるようになってきているのです。郷里群馬にも実は国指定重要文化財に値する木造彫刻が人知れずどこかに秘蔵されているのではないのでしょうか?思い当たる仏像(肖像・神像でも)がおありの方は是非ご一報ください。お待ちしております。



『記憶の味』

(有)はらっぱ 代表取締役

岩田 一秀

「いらっしゃいませー」

高校時代に通ったラーメン屋の入口で耳にする独特な語尾の上がるイントネーション。優しそうなお袋さんと、無口で頑固そうな親父さんの二人で切り盛りする小さなお店。高高生なら一度は聞いたことがあるであろう、肉みそラーメンの「東竜」だ。

部活の帰りや昼休みに抜け出し街中まで食べに行ったボリューム満点の味噌ラーメン。キャベツと豚肉を炒めたにんにくと辛味の効いた味噌ベースの餡が薄正油味のスープと、細めで喉越しの良い麺の上にたっぷりとかかっている。最初の一口目はあっさりとしたダシの効いた正油と味噌のあいだのような風味。食べ進めると味噌の餡がスープに溶け出し、最後は濃厚でコクのある味に変わる。キャベツの甘さと豆板醤の辛さ、にんにくの香り、食べ盛りの学生にとっては大盛りも容易く完食である。麺を食べ終え満腹、ごちそうさまと心の中でつぶやき帰ろうと思うのだが、残っているスープについつい手が延びまた飲んでしまう。不思議な味、青春の一品、肉みそラーメン。

そんな週に一度以上は東竜に通っていた、私の高校三年間は終わり、東京での生活が始まった。

バブル最盛期の東京は華やかで、見るものすべてが輝いているように思えた。だが、目標も無く、只々東京という巨大な潮流に流される日々を送っていた私にとって、コンクリートジャングルのビル風に吹かれながらも、ふと頭によぎる事があった。

「肉みそ、食べたい…」

そう、東竜の肉みそラーメンが脳内に浮かぶのである。欲求を抑え切れなくなった私は、高崎線のアーバンに飛び乗り帰省した。

高崎駅に着くと実家に帰るまでもなく、慈光通りを徒歩で東竜へ向かう、久しぶりに聞く独特なイントネーションの

「いらっしゃいませー」が心に響く。親父さんの振る中華鍋のカチンコチンという音が故郷にいる事を実感させてくれた。高校時代は当たり前だった一杯が特別で崇高な一杯に感じた。食べ終えて店を出ると、なんだか心も体も元気になって鋭気が漲ってくる。将来の定まらなかった私に明確な目標が見つかった瞬間だった。

「東竜のようなお店を出したい。」

そう心の中に決めた私は東京へ戻り、料理人の世界へと足を踏み入れた。約十年間、洋食を中心に修行し、1999年故郷高崎にスパゲティー専科はらっぱをオープンした。

店のコンセプトは「ラーメン屋のようなパスタ食堂」内装も東竜に似せたカウンターとテーブル3卓の小さなお店だ。看板メニューは赤唐辛子とにんにくのトマトソース。足元にも及ばないけれど、東竜の肉みそみたいな元気の出る、美味しいだけじゃなく記憶に残るメニューを生み出したいとの思いを込めた。

2015年12月、惜しまれつつも東竜は閉店してしまったが、私の記憶の中にはずっと「肉みそラーメン」の味は残っている。

いつか東竜のような存在になれるよう、故郷高崎の食文化に貢献し続けたい。

追記

この寄稿を書き終えた2017年8月5日の2日後の8月7日に東竜の店主がお亡くなりになりました。

東竜が残してくれた記憶の味は我々の心の中に永遠に続くと思います。

故人の御冥福を心よりお祈り申し上げます。



雑感

群馬大学職員

植原 康

8月のある夜、教員をしている同級生から携帯にメールが入っていた。珍しいなと思って開くと、同窓会報への寄稿の依頼だった。

正直なところ、300人からいる同級生の中で、もっとこのような原稿を書くのに相応しい人はたくさんいるのでは？とも考えたが、同級生からの折角のご指名でもあるし、「私によければ」ということで引き受けさせていただいた。

私は1996(平成8)年に高崎市立中尾中学校から高高に入学した。(と書いて、現役の高校生が当時まだ生まれていないことに気づき改めて時の流れを実感している。)

高校時代、対人関係の幅は広くはなかった。それでも、今も交流を続けてくださる恩師、友人が少なからずいて、嬉しく思っている。だから今回はそういった人間関係を話題とした。

3年生時のクラスは9組だった。(当時は1学年に9クラスあった。)担任は、吉井高校の校長を務めて今は退官されている関根正史先生。世界史の教員であり、歴史を面とらえることを教えてくださった方である。また進路部長であり、大学受験の際には大変なお世話をかけた。3年時、毎朝1時間早く登校し(赤本などの受験用書籍が揃っていた)進路指導室で自習をしてから授業に臨むのを日課としていた。その私のため(だけではないとしても)毎朝進路指導室を開けていてくださったことには感謝が尽きない。今も毎年1月2日は3年9組の有志が新年会を開いて関根先生を囲んでいる。

東京で仕事をしていたとき、1年間だけ同クラスだったH君と2人で、新橋で飲んだ。高校の時は仲良くも悪くもなく、ほとんど会話を交わしてもいないのに、当時の同級生たちのこと、先生方のこと、色々な話で話題が尽きなかった。不思議だった。これなら、高校の時からもっと仲良くしていればよかったと2人で笑った。

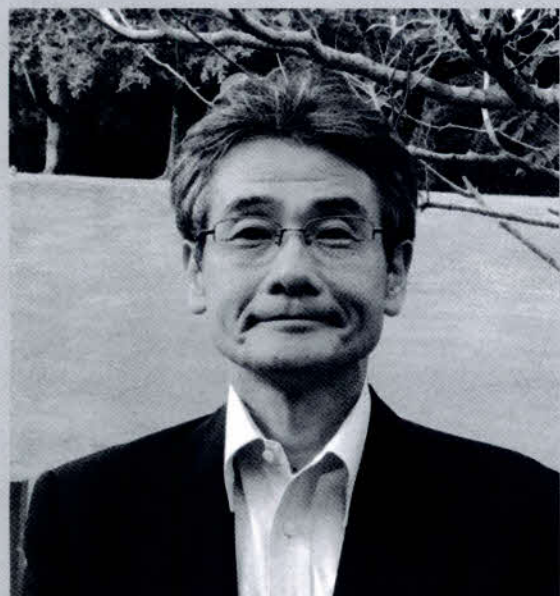
小・中と一緒にボーイスカウトに所属し、中学は同じ剣道部

だったT君は、一緒に高高に進学した。30年の付き合い。親友中の親友。3年時の定期戦は、彼が実行委員長、私が玉入れ班チーフだった。我々にとって最後の定期戦は高高の敗北に終わり、彼と私を含めた複数の実行委員が丸坊主となり、直後に撮影のあった卒業アルバムの写真に丸刈り姿をとどめることとなった。卒業して別の大学に進学した後、そして就職後も引き続き仲良くさせてもらい、互いに東京で働いていた5年前には、同じように定期戦で頭を丸めたY君も交えて3人で毎月のように新橋・日本橋あたりで飲んでた。

つい2カ月ほど前のある金曜日、韓国に駐在しているはずの彼から携帯に電話があった。中国に異動が決まったから、ビザ発給まで高崎にいと。その日、高崎高島屋のビアガーデンで、2人の共通の友人も交えて飲んだ。帰路、金曜夜の高崎の街中をどちらからともなく肩を組み高高の校歌を高唱しながら歩いた。その姿を冷静に振り返ればいい歳になって高高関係者に申し訳ないし、あの光景を苦笑しながら見ていたOBもいらっやしたかもしれないが、あの時はそんなことはどうでもよかった。社会人の体面もなく、2人の30代半ばの男は高崎の街中で10代の高高生に戻っていた。

3年前の年末、突然、実行委員で一緒だった1学年下のM君からFacebookで連絡が入り、当時高高生御用達だった(今でもそうなのだろうか?)プランタンに行くことになった。彼は北海道の大学を卒業後、北海道に留まり偶然にも私と同じ業界で勤めているとのことだった。当時とあまり変わらないプランタンで、当時より年はだいぶ重ねた男2人で近況を報告しあった。その足で日曜の閑散とした高高を訪れ、当時を語りながら校内を歩いた。(関係者の皆様には無断立入をご容赦ください。)

恩師、同窓生とのつながりについて書くにはまだまだ紙面が足りない。今まだこれだけ人との関係を持てているということは、やはり自分は恵まれていたのだと思う。



私の仕事

78期

一期一会 ～総合商社での30数年～

三井物産株式会社 リスクマネジメント部部长

金澤 赴弘

振り返ってみると、新入社員だった頃から30数年が過ぎ去り、世界中の様々な人・案件との一期一会を繰り返してきました。これまでも振り返りながら、私の仕事について書きたいと思います。

因果な仕事

1984年に三井物産に入社し、縁があり「審査部」に配属されました。“商社マン”といえば海外で活躍する華やかなイメージがありましたが、審査部は取引先の与信審査や担保取付けを担当し、倒産や信用不安が起きた際には債権回収のため交渉する部署で、自分が入社前にイメージしていた商社の仕事とは大分違う業務でした。入社3年目には大阪支店審査部に異動となり、5年間多くの倒産案件に遭遇しました。今から30年前には、企業が倒産すると反社会的勢力が介入してくることもあり（現在はもうビジネスにならないとみえ、そうしたことはありません）、もちろん弁護士と良く相談した上で、占拠されているらしい工場を恐る恐る見に行ったこともあり、「この件からは手を引いた方が良いのではないですか」という趣旨の電話がかかってきたこともあり、どうやって私の電話番号を知ったのでしょうか？漫画の「ナニワ金融道」のような世界でした。

子供が生まれた日の夜も、営業の担当者に懇願され、夜中まで憔悴しきった取引先の社長と担保交渉をし、その場で担保契約を手書きで作成、ハンコがないというので拇印を押してもらいました。子供が生まれためでたい日に、因果な仕事でした。

地球の裏側で

大阪支店勤務の後には、地球の裏側、ブラジル・サンパウロでの研修（1年）が待っていました。3カ月の語学（ポルトガ

ル語）学校通いの後、言葉もたどたどしいまま、地元の会計事務所で、ただ一人の日本人として実務研修をしました。会計事務所では、大学を出たばかりの若いブラジルの会計士が集まった大部屋で研修をしました。その時、若い会計士の一人から聞いた話が印象に残っています。彼は通称USP（ウスピ=Universidade de Sao Paulo、サンパウロ大学）出身のエリートでした。その彼が言うには「私は日本人を尊敬している。なぜならとても教育熱心で、USPの入学者も3割くらい日系人が占めている」とのこと。1900年代の初めに笠戸丸で日本から地球の裏側に移住して来た人たちが、農園で苦勞しながら大切に子供を育て、世代を重ね、ブラジルでトップの大学に相当程度の人数が入学するまでになっていること、そしてブラジル人から尊敬されていること、それを聞いた時、とても嬉しく日本人としての誇りを感じました。私も頑張らないと、と気合が入った瞬間でした。

研修後半は弁護士事務所での研修でした。イタリア系でとにかく明るいパチという弁護士に可愛がってもらいました。ある時、パチさんから「お前は日本のどこ出身だ？」と聞かれ、「グンマ」と答えたら、その語感が気に入ったのか、それから私の愛称が「グンマ」になりました。週末は、パチさん所有のサンパウロ郊外の農園に行き、馬車で広大な農園を回りました。農園のはるか先の地平線に沈んでいく夕日と、夜に見た蛍の光の美しさは今でもよく覚えています。ブラジルは蛍の光も大きいのです。

ラ米（ラテンアメリカ）案件三昧の時代

1年間のブラジルでの研修はあっという間に終わり、1993年に日本に帰国した後、4年間のニューヨーク駐在を含め、その後の約10年弱はラテンアメリカ、通称“ラ米（らべい）”関連の仕事中心になりました。社内で立ち上がったばかりの

カントリーリスク委員会事務局のラ米担当となり、日本から、そして1998年からはニューヨークから、ラ米諸国巡りが続きました。現在では南半球最大の石油採掘会社となっている「ペトロブラス」も、当時はまだ規模が小さく、リオの本社に業態調査のため何度も出向きました。ベネズエラのカントリーリスク調査のため、米国の国際金融協会IIFミッションに同道したこともありました。1週間以上、財務省等と面談、その調査・分析手法は大変参考になりました。また、あるベネズエラ企業への投資を検討した際のことも記憶に残っています。結果的に投資参画は断念しましたが、三井物産が2週間、じっくり時間をかけて現場調査を行った一方、同様に参画を検討していた韓国企業は、現場滞在時間はほんの30分程度でした。担当者は「三井が参画するならうちも参画するというのが当社トップの方針です」と言っていました。当時、韓国企業はトップダウン色が強いと言われていましたが、それが事実だと実感した瞬間でした。

プロジェクトファイナンスという仕事

2008年から2年間、財務系のプロジェクトファイナンス(以下プロファイ)の仕事を担当しました。中でも一番大きな仕事は、サハリンIIプロジェクト(ロシアのガスプロム、シェル、三菱商事、三井物産が出資する2兆円規模の石油・天然ガス開発プロジェクト)のプロファイ組成のクロージングでした。プロジェクト全体としては20年、プロファイとしても足掛け約10年間をかけた53億米ドル(約6000億円)規模のプロファイ契約で、三菱商事と協調して動き、日本のJBIC(国際協力銀行)を中核に国際市中銀行団と締結しました。サハリンIIプロジェクトは、1980年代後半から取組が開始されましたが、ソビエト連邦の崩壊に加え参加企業も二転三転し、度重なる困難に見舞われていました。漸くプロジェクトが軌道に乗ったと思われた2006年、ロシア政府が環境破壊を理由に工事停止命令を発表しました。それに嫌気を差した有力欧米銀行がプロファイ参画から相次ぎ撤退、最後は日の丸が頼りでした。クロージングに向けた数カ月はJBIC・参加銀行(特に邦銀)に日参し、漸く2008年6月にプロファイの契約調印式を設定しました。ただ、最後の最後にJBICとの契約締結には当時の福田康夫首相(これも何かのご縁なのでしょう)の事前ご承認が必要ということとなり、なんとか調印式当日の早朝に漸く福田さんのご承認を頂き、ぎりぎり調印に間に合うというまさに綱渡りの状態でした。その後9月にはリーマンショックがありましたので、調印式が延期となっていたらこのプロファイ契約は締結できなかったかもしれません。今思い出しても、冷や汗の出るような思い出です。

その後～現在

その後2010年から3年間シンガポールに駐在し、アジア・オーストラリアの案件の与信や事業管理を担当し、続いて2013年から2年間、ロンドンで欧州・中東・アフリカ地域本部のCFO(最高財務責任者)として勤務しました。結果、海外駐在期間はブラジルを含め通算10年となり、出張で訪問した国は50カ国以上となりました。そして、現在は東京の本社でリスクマネジメント部の部長として、与信・カントリーリスクの統括に加え、為替や商品価格の変動リスクの統括、リスク資産の計量化・分析、重要案件の審議メンバーにもなっています。会議も多く、毎日あつという間に時間が過ぎていきます。これまでの経験を案件組成やリスク削減に少しでも活かせたらと思いながら仕事をしています。また、これまで英語には苦勞して来ましたが、もう少し高高時代に勉強しておけば良かったと思っています。特にヒアリングが重要だと思います。

最後になりましたが、これまで高高の先輩・同期・後輩の多くの方々に大変お世話になって来ましたが、特に、大先輩である清塚勝久弁護士(60期)には、入社以来、本年8月まで、三井物産の顧問弁護士として、債権回収対応、種々コンプライアンス対応等で大変お世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



ブラジル研修時代(93年4月)



ヴェネズエラのカントリーリスク調査(96年頃)

◆◆ 公益財団法人「翠巒育英会」について ◆◆

PR

当法人の設立当初の基本財産となった基金はすべて群馬県立高崎高等学校同窓会が寄付したものである。

1981年(S56年)高崎高校硬式野球部が第53回選抜高等学校野球大会に出場することになった際、特別後援会(会長 小山禧一)が結成され、募金活動が行われ1億500万円余の浄財が集められた。その残余金の一部3千万円が同窓会に寄託された。同窓会ではこの資金の適正管理のため「財団法人翠巒育英会(理事長 原一雄)」を設立し、奨学資金(月額1万円)の無償給付とクラブ活動振興のための基金とした。

以来本会は財団の基本財産の利息の果実と同窓生及び篤志家の寄付で賄われ、2013年(平成25年)4月には法改正により「公益財団法人翠巒育英会」として新たに発足した。平成29年7月末日現在の奨学金給付を受けた生徒の総数は133名、支給総額は38,250万円に及んでいる。(H29.6現在)

《お願い》

平素より翠巒育英会にご理解ご協力をいただいており深くお礼を申し上げます。

現今の経済状況を鑑みれば奨学金を希望する生徒が増加する傾向が予測されます。同窓生諸兄にはこうした事情をご理解の上、本育英会に浄財をお寄せ下さい。是非とも後輩達の修学を後押しして下さい幸いです。今後益々のご協力をよろしくお願い致します。

「公益財団法人翠巒育英会」 理事長 串田 紀之

平成28年度「公益財団法人 翠巒育英会」決算書

(単位:円)

■収入

正味財産(基金)運用益	9,397
寄付金	2,516,225
雑収入	38
合計	2,525,660

■支出

事務費	奨学金	1,800,000
	学校教育補助	270,000
	委託料	300,000
	通信運搬費	77,156
	旅費交通費	3,525
	支払手数料	214,913
	雑費	29,057
管理費	通信運搬費	7,134
	消耗品費	2,030
	支払手数料	2,600
	雑費	12,559
合計		2,718,974

2,525,660-2,718,974=△193,314 (正味財産より減額)

■正味財産(基金)

*当期首残高	51,806,486
*当期増減高	△193,314
*当期末残高	51,613,172

(注)上記決算書は当法人の決算書の様式と異なりますが、皆様にわかりやすくするため、一般的な収支報告書の様式で表示しました。

寄付者名簿

敬称略(単位:円)

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
1	60	29	栗本 正彦	100,000
2	60	33	海老原英吉	100,000
3	60	32	安藤 文夫	100,000
4	60	27	吉見東太郎	100,000
5	60	42	小山 禧一	100,000
6	60	29	原 一雄	200,000
7	61	30	小川 健二	100,000
8	61	27	亀田 東伍	100,000
9	61	26	豊田 一男	100,000
10	62	47	松沢 睦	100,000
11	62		高崎高校同窓会	1,000,000
12	62	32	柴山大五郎	300,000
13	63	36	富田 賢二	100,000
14	63	65	須藤 元	300,000

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
15	63	35	村田 欣哉	100,000
16	元	30	土岐 正	100,000
17	元		元事務長 高橋千代三	100,000
18	元	19	木村遊奇男	50,000
19	元	52	清水 淳雄	100,000
20	元	45	安藤 直典	100,000
21	元	33	岡本 正己	100,000
22	元	54	間仁田恭一	100,000
23	元	19	木村遊奇男	300,000
24	元	43	谷内 浩	100,000
25	2	28	浦野 一男	300,000
26	2		元校長 磯貝 福七	100,000
27	2	51	田中 順	100,000
28	2	32	柴山大五郎	500,000

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
29	2	45	松本 芳郎	100,000
30	2	42	富永 秀治	100,000
31	2	46	善如寺 秀	100,000
32	3		昭五会	200,000
33	3		元教頭 今井 保男	100,000
34	3	35	茂木 三郎	100,000
35	3	36	吉見 和夫	100,000
36	4	38	小屋 敏一	100,000
37	4		柴山 ツギ	1,000,000
38	4	30	清水 貞保	100,000
39	4	49	橋爪 和夫	100,000
40	4	38	横山 巖	100,000
41	4	38	清水 三郎	100,000
42	4	50	金井 秀一	100,000
43	5	51	小河原 健	100,000
44	5	33	海老原英吉	100,000
45	5	38	重田 精一	100,000
46	5	50	横田 英一	100,000
47	5	41	松本 亘司	100,000
48	6	51	東 秀和	100,000
49	6		元校長 堀口 康平	100,000
50	6	36	堀口 喜告	100,000
51	7	40	吉田 勇	100,000
52	7	50	國峯善次郎	100,000
53	7	51	吉田 秀雄	100,000
54	7	42	小山 禧一	200,000
55	7	42	富永 秀治	100,000
56	7	45	須賀 徹	100,000
57	7	85	駒口 雅智	30,000
58	7	42	市川広太郎	100,000
59	8	85	横尾 英明	1,000,000
60	8	41	喜美候部圭吾	100,000
61	8	43	齋藤 謙蔵	50,000
62	9	41	井草 芳男	100,000
63	9	38	黒川 宗輔	100,000
64	9		元校長 古川 功	200,000
65	9	69	高高サッカー部後援会 代表	
			阿久澤 茂	300,000
66	10		元教頭 高橋 洌	100,000
67	10		Y・U	1,000,000
68	10		高高100周年記念事業 実行委員長	
			小山 禧一	2,000,000
69	10		高崎高校 60期	100,000
			高崎高校 60期	38,000
70	10		田端横先生 功労者表彰祝賀会発起人代表	
			横田 英一	200,000
71	10	38	林 静男	100,000
72	10		高崎高校バレーボール部OB会 会長	
			菊地 俊二	150,000
73	10	51	島崎 庸夫	100,000
74	10		福田 三枝 (故 越夫 夫人)	300,000

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
75	10	56	鈴木 信行	100,000
76	10	50	塩川 祐次	50,000
77	10		元教頭 高橋 洌	10,000
78	10	39	小板橋文夫	20,000
79	11	51	田中 順	100,000
80	11	30	土岐 正	100,000
81	11	56	井本 嘉宣	200,000
82	11	51	清塚 繁	100,000
83	11	55	安藤震太郎	100,000
84	11	56	高野 政博	50,000
85	11	57	上原 隆充	100,000
86	11	56	櫻井 弘	100,000
87	12	51	松本 昭一	100,000
88	12		元通信教頭 井出 存祐	200,000
89	12	50	横田 英一	120,000
90	12	51	田中 順	100,000
91	12		元校長 中野 敏宗	50,000
92	12		同窓会ゴルフ大会63期幹事一同	80,000
93	12		S・S	100,000
94	12	43	中山 治秀	100,000
95	12	55	石田 安利	100,000
96	12	46	片山 筈剛	200,000
97	13		元校長 桜井 直紀	100,000
98	13		高崎高校70期同窓会幹事	100,000
99	13		同窓会ゴルフ大会64期幹事一同	23,000
100	13		S・H	50,000
101	13	50	横田 英一	100,000
102	13		S・S	100,000
103	13		齋藤 敏雄	10,000
104	14	52	田口佐知雄	100,000
105	14		S・S	100,000
106	14		元教頭 福田 賢吾	100,000
107	14		元通信教頭 井出 存祐	100,000
108	14	58	千葉 照勲	100,000
109	14	39	只木 栄一	100,000
110	14		高崎高校同窓会	1,000,000
111	14	30	土岐 正	100,000
112	14	85	横尾 英明	100,000
113	15		U・Y	120,000
114	15		高崎高校同窓会	345,000
115	15		同窓会ゴルフ大会66期幹事一同	100,000
116	15	56	児玉 三郎	100,000
117	15		元校長 小林 克茂	100,000
118	15		元教頭 大崎 博章	100,000
119	15	49	橋爪 和夫	100,000
120	15		S・S	100,000
121	15	56	櫻井 弘	100,000
122	15	58	鈴木 行正	100,000
123	15	56	三浦 文雄	100,000
124	15	45	吉田康一郎	100,000

※16年度以降は、次号にて掲載いたします。

母校だより

第65回
翠巒祭
テーマ: No SurFace

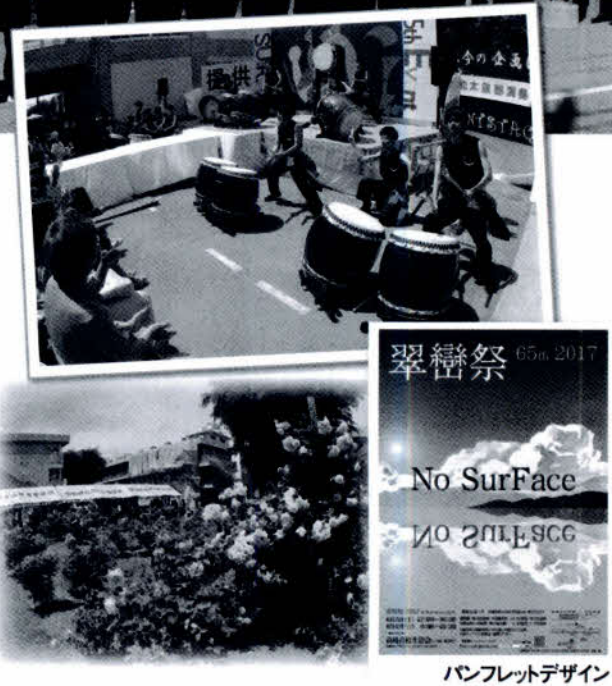


まずはじめに、翠巒祭にご来場いただいた皆さんと協力していただいた皆さんに、心から感謝しています。ありがとうございました。

さて、第65回翠巒祭を振り返ると、来場者数は12,689人と歴代に比べて減少したものの、テーマ『No SurFace』のもと、校内の展示もクオリティーが高くなっており、一人一人のお客様の満足度は高いものであったと感じます。また、今年は風の影響で急な人員が必要になることがありましたが、その時は実行委員内で手の空いてる班課がサポートに回るなど、実行委員同士の絆を確認できるものとなりました。

自分たちのベストの翠巒祭にできたこと、また、第65回翠巒祭実行委員長を務められたことは本当に光栄です。

第65回翠巒祭実行委員長 諏訪 陽彦



活躍部活紹介

運動部

- 【スケート部】 第9回全日本ノービス&ジュニアカップショートトラックスピードスケート選手権大会第1戦
丸山懐太郎 ジュニア男子総合 第4位 ジュニア男子 1000m第2位・500m第3位
第72回国民体育大会冬季大会スケート競技会 ショートトラック競技少年男子
丸山懐太郎 個人 500m 第2位・1000m 第4位
- 【水泳部】 平成29年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 出場
男子 100m背泳ぎ 男子 200m背泳ぎ 三浦玲央
4×100mフリーリレー 増田 亮・井尻雅人・中島悠太・須田大輝
- 【サッカー部】 第72回国民体育大会サッカー競技会 紋谷真輝 第5位

学芸部

- 【囲碁部】 第41回全国高等学校総合文化祭囲碁部門 出場 石井 蓮
- 【マンドリン部】 平成29年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール 団体 優良賞



これまでの戦績は高高41勝、
前高24勝、引き分け3です。

第71回定期戦得点表

部対抗		種 目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水 泳	0	9
		駅 伝	3	6
		綱引き	3	6
		玉入れ	9	0
		ソフトボール	9	0
		長縄跳び	4	2
0	6	卓 球	4	5
6	0	陸上競技	3	6
6	0	ソフトテニス	3	6
6	0	バレーボール	3	6
6	0	バスケットボール	5	4
実施せず		空手道		
6	0	柔 道		
0	6	剣 道		
6	0	弓 道		
3	3	サッカー		
6	0	ラグビー		
6	0	硬式野球		
0	6	軟式野球		
0	6	テニス		
51	27	小 計	46	50
総合計			高高 97	前高 77

今回のアウェーでの勝利は素晴らしいものだ。高崎のみんな、本当によくやってくれた。特に玉入れは、最後の種目ということもあり、両校の生徒たちが集まる中で最高の盛り上がりを見せていた。だが、今回の勝利は運良くつかんだものであるということを忘れないでほしい。今後の高崎の課題は一般生徒の練習参加率の低さと、3タテされた水泳だ。これらを克服し、来年のホームでの戦いも気を抜かずに頑張り勝利しよう。正々堂々と戦ってくれた前橋の皆さんにも感謝したい。

定期戦実行委員長 富田 八雲

卒業生合格者数(全日制) ()内は現役

大学	年次	29年	28年	27年	大学	年次	29年	28年	27年	大学	年次	29年	28年	27年
北海道大		10(6)	11(4)	10(6)	金 沢 大		10(10)	15(13)	13(12)	中 央 大		43(38)	76(52)	55(47)
東 北 大		30(21)	29(19)	27(22)	信 州 大		3(3)	9(6)	6(5)	明 治 大		54(36)	67(40)	57(47)
筑 波 大		9(8)	5(4)	8(7)	名 古 屋 大		4(4)	2(2)	3(3)	上 智 大		13(4)	8(7)	9(8)
千 葉 大		3(2)	7(7)	5(3)	京 都 大		2(1)	5(2)	2(0)	立 教 大		12(11)	22(13)	8(6)
群 馬 大		34(31)	39(30)	31(27)	高崎経済大		17(17)	15(15)	15(12)	青山学院大		10(7)	30(24)	15(10)
埼 玉 大		8(5)	5(4)	5(5)	首都大東京		5(0)	2(0)	6(4)	法 政 大		53(37)	56(42)	32(29)
東 京 大		8(3)	13(8)	9(4)	国 公 立 大		15(11)	16(9)	4(4)	日 本 大		74(55)	58(44)	56(41)
一 橋 大		1(0)	0(0)	1(0)	医学部医学科					東京理科大		93(60)	117(87)	72(39)
東京工業大		2(1)	2(2)	1(0)	慶 應 大		23(13)	35(23)	21(11)	芝浦工業大		76(64)	76(58)	38(34)
東京外国語大		5(4)	3(1)	3(3)	早 稲 田 大		36(28)	54(29)	46(23)	明治学院大		6(6)	10(4)	8(7)
横浜国立大		2(1)	6(6)	4(4)						同志社大		3(1)	4(4)	4(3)
新 潟 大		21(19)	17(10)	10(6)						立 命 館 大		10(6)	12(8)	10(5)

進路講演会

テーマ「21世紀型スキルとは何か」



株式会社チェンジウェイブ代表
佐々木裕子氏

ジャズピアニスト
中島さち子氏

平成29年6月19日(月)13:30より、本校体育館にて全校生徒を対象に進路講演会が開催された。佐々木氏が第一部で、中島氏が第二部で講演して下さった。

佐々木氏はご自身の経験を踏まえながら、「21世紀型スキルを身につけるということは、成長する過程で錆びついていく本来の力を解放することである」と述べた。中島氏は楽譜やピアノ演奏を織り交ぜながら、「数字や思い込みにだまされない力」「発想の飛躍力」「遊びや感動を生み出す力」を身につけることの大切さを訴えた。

キャリア教育講演会

テーマ「高高・大学・そして国家公務員」



農林水産省経営局保険課法令係長
鈴木陽氏(105期)

平成29年10月23日(月)14:30より、本校体育館にて全校生徒を対象にキャリア教育講演会が開催された。本校卒業生の鈴木陽(あさひ)氏にご講演いただいた。

鈴木氏は、「"いま"を守り、"未来"をつくる。自分ではなく、みんなのために。それが国家公務員という生き方である」と述べ、ご自身の高校時代を振り返りながら、「情報を集め、将来の選択肢を増やそう」と力説なさった。

同窓会だより

第116回 高中・高高同窓会新年総会・懇親会
皆様をこころよりお待ちしております。

87期代表幹事 静 和彦



皆さん、こんにちは。87期代表幹事の静和彦です。来る第116回高中・高高同窓会新年総会は、会場をホワイトイン高崎に変更して、平成30年1月27日(土)午後3時より開催いたします。会費は5,000円となっています。多くの卒業生の出席を心からお待ちしております。

87期は昭和最後の卒業になります。平成の御世30年を経て、地元で活躍している仲間は少数派であり、日本各地あるいは海外で活躍している同窓生が多い中、職業や生活環境、人生哲学がそれぞれ異なった高校時代の仲間達が共に一つの

目標に向かって集まったことは、87期それぞれの人生において大きな勉強となり財産となりました。会場の変更に伴い準備段階から多くの課題がありましたが、一致団結してより強固な絆の下、同窓会新年総会に向けて準備が整いました。この場を借りて、ご教授・ご鞭撻いただいた方々に感謝申し上げます。

今回の同窓会新年総会が、母校高崎高校の栄えある伝統的一幕となり、また、次年度の更なる飛躍のステップとなることを心から祈念しております。

第116回 高中・高高同窓会新年総会のご案内

会場が変更になりました

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

諸先輩方、後輩諸氏多くの同窓の皆様方をお迎えし、総会では本会および母校の状況をご確認いただき、懇親会では在学当時を思い起こして共に楽しいひとときをお過ごしいただける様、準備を進めております。

同級生、先輩後輩皆様お誘いの上、一人でも多くの同窓の皆様がご参加下さいます事、当番幹事一同心よりお待ちしております。

【日時】平成30年1月27日(土)午後3時より 【会場】ホワイトイン高崎(高崎市赤坂町94 電話:027-325-5858)

【会費】お一人様 5,000円(当番幹事 87期代表 静 和彦)

第24回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

- 開催日 2017年5月28日(日)
- 開催場所 サンコー72カントリークラブ
- 参加人数 215名
- 当番幹事期 80期

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)

《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	62期	328
準優勝	81期	332
3位	69期	335

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	81期	332	43.2	288.8
準優勝	69期	343	51.6	291.4
3位	77期	367	75.6	291.4

●個人戦 《ベストグロス賞》

順位	氏名	期	GROSS
赤城・榛名	佐藤 和徳	57期	77
榛名・妙義	川手 義昭	62期	74
妙義・赤城	櫻澤 勉	71期	81

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	片山 哲也	69期	83	13.2	69.8
準優勝	小林 均	77期	88	18	70
3位	岸 亮	81期	81	10.8	70.2



優勝69期片山さんあいさつ



次回幹事81期のみなさん



共学化問題に言及し、
会を沸かせた串田同窓会長



プレーを終え、表彰会場でくつろぐ参加者



参加費の一部を翠巒育英会、
体育会などに寄付



当日は天候にも恵まれ、皆様方のご協力により無事開催することができました。心より感謝申し上げます。

80期 ゴルフ代表幹事 樋口 哲雄

平成29年度高崎高校人事異動

《退任者・転出者》

校長	佐藤 功	退職
副校長	梅澤 英明	松井田高(校長昇任)
事務長	藤井 通義	退職
国語	加邊 一芳	孺恋高(教頭昇任)
数学	下田 真志	渋川高
英語	新井 悟	県立太田高
英語	加藤 俊介	県立前橋高
理科(地公臨)	山寺 玲子	桐生女子高(採用)
事務	宮本 香織	吉井高
国語(置籍)	坂爪 誠	県立前橋高

《新任者》

校長	加藤 聡	富岡高
副校長	丸山 正	(副校長昇任)
教頭	関口 博士	高経大附属高
事務長	富澤 昌久	高崎女子高
国語	北爪 紀枝	市立前橋高
数学	田中みゆき	高崎東高
理科	中嶋 英彦	県立太田高
英語	須田 響二	中央中等教育学校
英語	大久保泰希	吾妻高
事務	小金澤 歩	桐生高

通信制

《退任者・転出者》

教頭	飯塚 聡	前橋女子高
国語	石村 淳子	高崎高等特別支援学校
数学	中島 英二	退職
事務(地公臨)	矢畑 慶子	退職

《新任者》

教頭	中澤 政幸	高崎女子高(昇任)
国語	佐藤 宏江	高経大附属高
数学	廣神 孝彦	県立前橋高
事務(地公臨)	小林 雅美	県立前橋高



◆東京同窓会役員変更(H29年6月)

顧問	山本 忠順 (62期)	常任幹事	神成 尚亮 (72期)
会長	仙波 憲一 (68期)		井野 直幸 (74期)
* 仙波氏は同窓会本部副会長に就任			
副会長	御供 謙一 (68期)		橋爪恒二郎 (77期)
副会長	丸山 俊弘 (71期)		和田 国明 (79期)
幹事長	田中 誠 (72期)		長井 俊史 (80期)
副幹事長	小池 純司 (72期)		四方田 勉 (81期)
事務局長	下村 昇治 (75期)		大沢 貴頼 (83期)
監事	兵藤 公彦 (72期)		久保田雅彦 (85期)
監事	中村 健一 (93期)		信澤 康一 (85期)
翠巒編集長	田端 広英 (87期)		新井 隆康 (94期)
			亀井 剛 (96期)
			関口 慶太 (99期)



1. 指月庭のバラを年間維持管理する『指月庭倶楽部員』を募集しております

母校120周年事業として指月庭は140本の新品種バラにて鮮やかに復活しました。現在9名にて活動。春～秋にかけて毎月第2・4日曜午前9時より手入れを行っています。時間の取れる方は道具持参にて参加して頂きたいと思います。詳しくは同窓会事務局 (TEL.027-320-6024) にお問い合わせください。

2. 若い卒業期でまだ代表幹事、常任理事、理事等の役員未決定期に補助金

役員未決定、或いは同窓会未開催等で困っている期には初回案内通知にかかる費用 (5万円前後) を同窓会にて支援致します。対象期の有志は事務局 (TEL.027-320-6024) にご連絡ください。

3. 企業の協賛会員も継続募集しております

ホームページでの企業PR及びリクルート活動に活かします。年間1万円、初回はプラス作成費1万円です。事務局 (TEL.027-320-6024) 或いはホームページより申込頂けます。

創立 120 周年記念に合わせ絵画を寄贈

東京都文京区の矯正歯科医中島榮一郎氏 (62期) が母校創立120周年を記念して自身のバラを描いた日本画を同窓会を通し母校に寄贈して下さいました。同時に同期生でH28年に亡くなった世界的グラフィックデザイナー佐藤晃一さんの原画も寄贈して頂きました。

同期の小椋淳至氏も立会され、両氏の作品は翠巒会館の入口正面に飾っております。



左より加藤校長、中島氏、本部幹事長立見、小椋氏
(向かって左側中島氏作品、右側が佐藤氏作品)

維持会費 納入者数 推移(28期～79期)

期	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
通信	21	21	18	25	20	23	15	35	26	27	18
定時	18	19	16	10	15	15	12	24	36	37	25
28	1										
30											
31	4	3	2	1	1	1	1		1	1	
32	1	1		2	1						
33	2		2	1				1			
34	5	4	2	3		1					
35	3	1	1	2		1	1	2	2	2	
36	6	5	4	2	1	2	1	1	1	1	1
37	3	3	3	1	1	2	3	2	2		1
38	8	9	7	1	1	1		2	1		
39	5	5	6	5	2	3		3	2	1	
40	14	12	10	10	8	5	5	4	5	3	3
41	16	15	16	11	8	4	4	8	6	7	4
42	24	21	21	18	13	11	8	13	12	4	3
43	11	12	14	10	7	7	6	3	4	4	
44	30	29	27	27	19	17	14	20	18	15	13
45	28	24	26	21	11	11	11	16	13	16	10
46	37	25	29	26	19	25	18	28	28	26	16
47	33	32	31	22	24	15	21	16	13	11	6
48								12	5	7	6
49	33	36	39	37	26	28	24	37	41	29	31
50	60	58	65	62	52	55	43	60	50	39	38
51	40	41	45	35	26	30	28	40	44	43	26
52	48	50	47	48	38	31	32	53	48	45	43
53	44	38	33	43	34	33	29	48	53	45	37
54	56	57	54	53	48	44	49	64	70	60	53
55	42	41	45	43	34	30	22	53	46	56	44
56	70	78	73	79	64	54	59	81	64	71	56
57	50	56	53	53	48	55	43	74	68	67	53
58	47	42	57	48	44	42	43	61	58	57	46
59	61	60	59	67	50	52	55	71	73	68	53
60	41	41	36	43	38	33	35	60	61	64	54
61	49	54	56	57	40	57	49	78	63	60	55
62	39	48	50	44	41	33	39	64	69	74	55
63	45	47	48	50	45	45	43	69	68	60	63
64	30	40	44	38	36	37	33	62	50	50	42
65	27	29	30	27	28	27	25	61	60	55	48
66	35	38	32	43	34	29	30	76	59	55	45
67	31	24	31	31	26	32	33	58	55	60	50
68	31	36	33	32	24	24	18	47	43	47	42
69	28	29	30	27	26	28	23	52	54	74	63
70	27	36	34	36	28	28	32	51	56	44	51
71	25	32	30	34	28	30	27	63	44	46	48
72	33	37	38	38	32	30	32	53	55	62	50
73	32	29	32	32	31	29	26	40		51	48
74	50	40	47	52	49	43	43	59	51	40	56
75	36	37	36	33	39	32	32	47	54	47	43
76	82	38	32	32	27	24	33	55	58	57	41
77	127	89	31	30	27	26	23	46	45	41	44
78	31	139	145	39	25	30	26	52	50	46	75
79	21	28	145	121	26	33	27	48	43	57	50

維持会費 納入者数 推移(80期～114期)

期	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
80	17	25	32	138	121	24	46	51	54	47	45
81	22	29	28	30	116	113	62	58	65	54	55
82	19	21	18	22	20	139	115	81	86	77	65
83	12	18	21	15	17	17	68	81	97	75	41
84	15	16	12	19	16	13	46	139	103	53	38
85	21	23	24	21	26	23	25	49	175	143	70
86	14	12	12	17	9	13	20	22	56	167	128
87	7	5	7	8	5	12	20	27	35	44	87
88	9	19	15	14	14	12	14	22	30	30	22
89	13	13	13	14	11	10	13	24	22	29	26
90	9	10	10	11	8	13	12	15	15	14	11
91	14	19	20	21	15	14	17	21	30	23	19
92	9	7	9	12	17	18	15	27	27	24	18
93	10	11	7	8	7	7	3	12	11	10	8
94	15	8	8	6	6	8	4	13	14	26	14
95	12	9	7	8	6	4	9	15	9	15	9
96	10	6	11	7	9	8	5	15	11	18	9
97	6	5	4	6	3	3	3	10	13	8	13
98	10	5	11	8	3	4	4	10	9	8	5
99	7	11	10	8	6	5	6	12	13	13	11
100	13	14	11	10	8	12	10	16	15	14	12
101	12	9	12	12	11	8	7	12	12	11	9
102	24	18	18	17	15	13	12	13	18	14	9
103	23	25	22	20	11	15	11	22	22	16	17
104	15	20	15	13	9	13	4	14	15	16	13
105	29	26	33	30	17	14	14	18	19	16	16
106	4	41	24	28	15	15	14	27	19	24	21
107			34	26	13	13	8	21	17	22	10
108			1	28	15	18	8	26	19	19	13
109					24	16	11	28	22	15	18
110						20	12	24	25	20	22
111							19	39	28	30	13
112								66	48	32	28
113									63	45	31
114										59	42
115											23
	2013	2114	2215	2182	1838	1866	1814	3004	3094	3063	2600

コンビニ開始

※ は当番期

コンビニ開始

120 記念費

120記念費11月末現在

維持会費 納入額 推移

西暦	元号・年	納付者数	金額(千円)
1975	昭和 50		1,270
1976	昭和 51	1,207	1,640
1977	昭和 52	1,489	2,010
1978	昭和 53	1,012	1,368
1979	昭和 54	1,361	1,960
1980	昭和 55		2,485
1981	昭和 56		2,573
1982	昭和 57	1,626	4,127
1983	昭和 58		4,144
1984	昭和 59		4,048
1985	昭和 60		4,617
1986	昭和 61		4,773
1987	昭和 62		4,975
1988	昭和 63	1,968	5,214
1989	平成 1	2,091	5,505
1990	平成 2		5,697
1991	平成 3	2,268	5,753
1992	平成 4		6,732
1993	平成 5		6,623
1994	平成 6		7,342
1995	平成 7	2,497	6,685
1996	平成 8	2,597	6,621
1997	平成 9	2,010	5,355
1998	平成 10	2,187	5,999
1999	平成 11	2,083	6,057
2000	平成 12	1,855	5,438
2001	平成 13	2,055	5,803
2002	平成 14	2,404	6,629
2003	平成 15	2,192	6,244
2004	平成 16	2,117	5,976
2005	平成 17	2,336	6,509
2006	平成 18	2,496	7,028
2007	平成 19	2,013	5,794
2008	平成 20	2,114	6,261
2009	平成 21	2,215	6,415
2010	平成 22	2,182	6,257
2011	平成 23	1,838	5,895
2012	平成 24	1,866	5,854
2013	平成 25	1,814	6,195
2014	平成 26	3,004	8,167
2015	平成 27	3,094	9,323
2016	平成 28	3,063	11,261
2017	平成 29	2,600	9,810

いつも維持会費納入のご協力ありがとうございます。ここ10年間の維持会費納入実績を掲載致しました。各期毎の納入者数をご覧いただき、今後も一層のご支援をお願い申し上げます。納入者数推移を見て頂きますと、当番期の年には激増しますが、3年経過しますと激減しております。継続できますよう心よりお願い申し上げます。総数で見ますとコンビニ併用振込の成果もあり、納入者数は住所確認者総数23,000名に対し3,000名と約1,000名増加しております。ホームページの充実等含め、同窓会員への情報提供強化と、母校への支援を充実させるために、今後とも宜しくお願い申し上げます。(本部幹事長 立見)

平成29年 褒章・叙勲受章者 (敬称略)

春の叙勲

旭日双光章 月岡 関夫(58期)
旭日双光章 小林 輝男(61期)

大臣表彰

文部科学大臣表彰 中田 洋(61期)

秋の褒章

黄綬褒章 阿久澤 茂(69期)

秋の叙勲

旭日小綬章 茂木 渉(55期)
旭日重光章 上野 公成(57期)
瑞宝小綬章 寺澤 康行(62期)
瑞宝中綬章 松本 修(65期)
瑞宝小綬章 栗原 健(第29代校長)



◆翠巒文庫について◆

翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成28年10月1日～平成29年9月30日〉

●著書／作者

- 清水正之詩文集 清水 正之(48期)
- 歴史の現場から 内藤 真治(54期)
- 詩集—藤原定家のランニングシューズ 伊藤 信一(78期)
- 万有聖力 心のベクトル場(上) 鳥居 修(80期)
- 障害を持つ息子へ～息子よ。そのままで、いい～ 神戸 金史(84期)

同窓会関連グッズ販売

(郵送希望の場合は現金書留にて下記金額を事務局までお送り下さい)

〒370-0861 高崎市八千代町 2-4-1 高崎高校同窓会事務局宛 電話・FAX 027-320-6024



120周年誌+記念品+バッグ
(クリスタルペーパーウェイト)
2,000 円



高中・高高120周年記念ビデオ
(DVD) 1,000 円



高崎高校100年史
(通史、人物編)セット 2,000 円



襟章銀メッキ 1,000 円

《別売品》



学帽(2本線、校章付)
10,000 円



野球帽
(甲子園出場西暦年入り)
3,500 円

110周年記念誌「翠巒」	1,000 円
100周年記念誌「翠巒」	1,000 円
高崎高校80年史(上・下)セット	1,000 円
校歌・応援歌CD	1,000 円
ネクタイピン(卒業記念品)	1,000 円
同窓会員名簿(H29年版)	4,300 円

※尚、品目によっては在庫数により注文順、終了次第となります。ご了解願います。

〒370-3107
群馬県高崎市下之城町584-70 高崎産業創造館 202
(株)群馬スポーツマネジメント 堀口芳明宛 FAX027-386-6083
(群馬ダイヤモンドベガサス社長 携帯 090-3245-0472)

高高同窓会 予算決算報告

平成28年度 通常会計決算

(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

平成29年度 通常会計予算

(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

収入の部

費 目	予算額	決算額	増 △減	備 考
前年度からの繰越金	438,383	438,383	0	前年度から繰越金
入 会 金	3,168,000	3,283,800	115,800	全日制322名 (@9,900) 通信制48名 (@2,000)
維 持 会 費	8,000,000	11,261,000	3,261,000	3,063名 (120周年記念事業寄付金 1,000×3,000人を含む)
利 息	1,017	334	△683	
雑 収 入	300,000	1,059,981	759,981	Webサイト協賛金・記念品収入 定期解約繰入ほか
合 計	11,907,400	16,043,498	4,136,098	

支出の部

費 目	予算額	決算額	残額	備 考
会 議 費	950,000	1,127,044	△177,044	新年総会準備ほか
祝 賀 費	1,000,000	810,188	189,812	叙勲記念品・卒業記念品ほか
餞 別 費	200,000	130,000	70,000	平成27年度末離任職員餞別
慶 弔 費	100,000	84,700	15,300	
通信印刷費	540,000	513,695	26,305	維持会費督促状・納入礼状・ 翠鸞会館電話代ほか
旅 費	120,000	90,000	30,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,735,809	214,191	同窓会報発行費および発送費
事 務 費	1,400,000	1,258,998	141,002	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	40,543	59,457	賞状・記念品ほか
資料整理費	600,000	315,900	284,100	Webサイト管理費ほか
補 助 費	1,600,000	2,562,000	△962,000	翠鸞体育会・生徒活動補助 部活動補助
環境整備費	300,000	291,600	8,400	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑 費	600,000	430,719	169,281	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	4,000,000	△4,000,000	特別会計積立100万円・ 120周年記念事業寄付金300万円
予 備 費	447,400	0	447,400	
合 計	11,907,400	15,391,196	△3,483,796	

収入総額(円) - 支出総額(円) = 差引繰越残額(円)
16,043,498 15,391,196 652,302

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	13,759,708円
	平成28年度通常会計より	1,000,000円
	120周年記念事業寄付金	3,000,000円
	利息	3,078円
合計		17,762,786円
支出の部	120周年記念事業(指月庭工事)	1,914,941円
	合宿所浴室改修工事	2,333,664円
	(通常会計へ繰入)	770,081円
合計		5,018,686円
当年度差引残額		12,744,100円

収入の部

費 目	今年度予算	前年度予算	増 △減	備 考
前年度からの繰越金	652,302	438,383	213,919	前年度から繰越金
入 会 金	3,168,000	3,168,000	0	全日制入学生320名 (@9,900)
維 持 会 費	10,000,000	8,000,000	2,000,000	120周年記念事業寄付金 200万円を含む
利 息	1,098	1,017	81	
雑 収 入	3,000,000	300,000	2,700,000	Webサイト協賛金・記念品収入 名簿収入
合 計	16,821,400	11,907,400	4,914,000	

支出の部

費 目	今年度予算	前年度予算	増 △減	備 考
会 議 費	1,200,000	950,000	250,000	新年総会準備ほか
祝 賀 費	1,000,000	1,000,000	0	叙勲記念品・卒業記念品ほか
餞 別 費	220,000	200,000	20,000	平成28年度末離任職員餞別
慶 弔 費	100,000	100,000	0	
通信印刷費	600,000	540,000	60,000	維持会費督促状・納入礼状・ 翠鸞会館電話代ほか
旅 費	120,000	120,000	0	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,950,000	0	同窓会報発行費および発送費
事 務 費	1,400,000	1,400,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	100,000	0	賞状・記念品ほか
資料整理費	400,000	600,000	△200,000	Webサイト管理費ほか
補 助 費	2,600,000	1,600,000	1,000,000	翠鸞体育会・生徒活動補助
環境整備費	400,000	300,000	100,000	指月庭およびバラ園の維持管理費・ 指月庭用品ほか
雑 費	600,000	600,000	0	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	4,000,000	0	4,000,000	特別会計積立金200万円・ 120周年記念事業寄付金200万円
予 備 費	131,400	447,400	△316,000	
合 計	16,821,400	11,907,400	4,914,000	

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	12,744,100円
	平成29年度通常会計より	2,000,000円
	120周年記念事業寄付金	2,000,000円
	利息	2,500円
合計		16,746,600円
支出の部	120周年記念事業	3,085,059円
合計		3,085,059円



平成30年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。(郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします。)



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人 串田 紀之

編集委員: 田端 穰(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)
若山 享(58期) 立見友孝(63期) 熊野卓司(66期)
新井重雄(78期) 竹内 聡(79期) 林 孝彦(81期)
關根秀仁(82期)

編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第51号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(編集委員)

【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)～6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024